

MBTI を用いた早期リスク特定

PM コース 矢吹研究室 1442085 中村真悟

研究の背景

プロジェクトマネジメントとはヒト・モノ・カネ・資源を管理することである．この中で最もプロジェクトに関わり，かつ対処が確立しにくいのはヒトであると私は考える．

プロジェクトマネジメントにおいて，メンバとは必ず顔見知りになるということはない．今マネジメントしているプロジェクトのメンバはどのような人なのか．すぐにわかるわけではない．どのようにしたら改善できるのだろうか．

チームメンバを固定してしまうことである．当然そうすることができれば苦労はしないだろうが，プロジェクトの定義上困難な話である．では，プロジェクトマネージャがより早くメンバのことを，人間の特徴を把握することができればどうだろうか．

ユングの類型論を発展させた MBTI というものがある．人の考え方を

- 内向：I・外向：E
- 感覚：S・直感：N
- 思考：T・感情：F
- 判断的態度：J・知覚的態度：P

の 4 指標の組み合わせで 16 タイプに分類するものである．この技法はキャリアカウンセリングやリーダーシップ開発，チームビルディングなどに使われることが多い．

この MBTI を用いて，プロジェクトのメンバの大まかな性格を理解し，メンバの相互作用が原因となって起きる事象の予測を行うことはできないのだろうかと考える．以上のことから本研究では MBTI を用いて，プロジェクトを円滑に遂行する方法を研究する．

1. 研究の目的

本研究の目的は，チームメンバの MBTI の 16 タイプの相互作用がプロジェクトにどのような影響をもたらしているのかを調べる．その結果から，一つ目にチームメンバの編成によるメンバ間のリスクを特定できるようにすることである．二つ目に，プロジェクトの早期段階から注視すべき発生確率の高いリスクを明確にすることである．

2. プロジェクトマネジメントの関連

本研究では，PMBOK におけるリスク・マネジメントに関連する．MBTI は自己理解メソッドであり自己成長を促すため，人的資源マネジメントに関連づく．また，MBTI はチームビルディングに用いることができる．さらにはメンバ間の円滑なコミュニケーション向上が期待できるため，コミュニケーションマネジメントに関連しているといえる．

3. 研究方法

以下の手順で研究を進める．

- ソフトウェアコースの PM 実験を受講する学生に対し，MBTI の性格検査を行い，メンバのタイプを調査
- 各チームに対し，アンケートを行い実際にどのような事象が起きたか調査
- アンケートの結果と個人のタイプ・チームのメンバでどのような関連があるのかを考察

4. 進捗

上記の手順で、PM 実験のソフトウェアコースを受講していた学生 38 人に MBTI 診断とアンケート調査を行った。MBTI 診断の結果は表 1 の通りである。今回診断した学生 38 人の中には 3 タイプがいなかった。下記の表は 2 × 2 集計表での相関関係を求めたものである。この表において、値 p が値 Z の 5 % を下回るのであれば、相関があるということになる。

思考 (T) 型：情緒 (F) 型と「話し合いの場では自分から進んで発言した」という質問 (表 2) では値 Z の 5 % の棄却域にあたる 0.04 を出したため、相関があると言える。同じように規範 (J) 型：柔軟 (P) 型と「情報共有は問題なくできていた」という質問 (表 3) でも同様に相関があると言える。

タイプ	人数
INFP	4
ESTP	4
ENTP	4
ISTP	3
ISFP	3
ISFJ	3
ESFP	3
ESFJ	3
INTP	3
ESTJ	3
INFJ	2
ENFJ	2
ENTJ	1
ISTJ	0
INTJ	0
ENFP	0
合計	38

図 1 MBTI 結果

集計表	T	F	計
はい	18	16	34
いいえ	0	4	4
計	18	20	38

値Z	4.0235294
----	-----------

期待度	T	F	計
はい	16.1053	17.8947	34
いいえ	1.8947	2.1053	4
計	18	20	38

値p	0.0449
----	--------

図 2 T・F と進んで発言したのクロス集計

集計表	J	P	計
はい	13	15	28
いいえ	1	9	10
計	14	24	38

値Z	4.2022959
----	-----------

期待度	J	P	計
はい	10.3158	17.6842	28
いいえ	3.6842	6.3158	10
計	14	24	38

値p	0.0404
----	--------

図 3 J・P と情報共有は問題なくできていたのクロス集計

5. 今後の計画

- 今回のアンケート結果を踏まえ、質を高める
- PM 実験後半組のデータを用いて仮説を立てる
- 実証された相関が長期の場合どうなるのか、PM 演習を受講する学生に対し同様の方法でアンケートを行い検証する

参考文献

- [1] 正夫坂内, 一郎 (通信・ネットワーク工学) 佐藤, 知之古谷, 和男矢野, 雅夫桑原, 武今井, 修功上田, 直人松本, 亮二森. ビッグデータを開拓せよ: 解析が生む新しい価値. 角川インターネット講座, No. 07. KADOKAWA, 2015.
- [2] 友佳杉浦. 1-5 レスキュー・マネジメントのためのストラテジック・チーム・ビルディング論. プロジェクトマネジメント学会研究発表大会予稿集, Vol. 2001, pp. 20-25, mar 2001.
- [3] 啓太板倉. ルーブリック評価を利用した pbl における学習到達度の測定. mar 2015.
- [4] 梢北村. Csi による人格分類がグループディスカッションへ及ぼす影響. 平成 27 年度プロジェクトマネジメント学科卒業論文概要集, Vol. 2015, pp. 11-12, mar 2015.
- [5] タイプ別性格診断. <http://www.secret.ne.jp/~delmonte/> (2016.7.23 閲覧).